

和歌山大学・岸和田市 地域連携戦略ビジョン

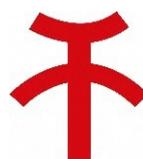
2024 ▶ 2028



wakayama
univ.

国立大学法人

和歌山大学



岸和田市

Kishiwada City

目次 – CONTENTS –

はじめに	01
計画の概要及び進行管理	01
第1章 現状到達点と課題	02
● 目指す姿Ⅰ 高度教育機能を発揮している	02
● 目指す姿Ⅱ 生涯学習機会の提供	03
● 目指す姿Ⅲ 地域課題の発見と解決・大学の知的資源 と住民の交流をサポートしている	04
● 目指す姿Ⅳ 持続可能な連携組織となっている	05
第2章 今後の方向性	06
● 目指す姿Ⅰ 高等教育機能を発揮し、地域の教育力を 向上している	07
● 目指す姿Ⅱ 市民の生涯を通じた学習をサポートして いる	08
● 目指す姿Ⅲ 地域課題の発見と解決・大学の知的資源 と住民の交流をサポートしている	09
● ミッション達成のための実行基盤	10
参考資料	11

はじめに

平成15年(2003年)8月6日、和歌山大学と岸和田市は、産業・経済・教育・文化・行政等総括的分野での地域の振興と活性化に貢献するため、地域連携推進協定を締結した。その後、地域連携推進協議会、同企画運営委員会を設置し、2年半の準備期間を経て平成18年(2006年)4月10日、和歌山大学岸和田サテライトを開設した。

平成26年(2014年)に、地域連携事業の実績評価を踏まえて、地域連携の現状到達点を確認するとともに、10年後を見すえ「地域連携戦略ビジョン(2014~2023)」を策定した。

令和5年(2023年)に地域連携戦略ビジョンが計画期間満了を迎え、今後の和歌山大学と岸和田市との連携のあり方を明確にするとともに、官学連携による地域の活性化、住民自治によるまちづくりと人材育成を、持続可能な体制で計画的に進めていくため、これまでの地域連携戦略ビジョンの理念を引き継ぐ「地域連携戦略ビジョン(2024~2028)」を策定する。

計画の概要及び進行管理

地域連携戦略ビジョンについては、これまで計画期間を10年とし、アクションプラン(3年)と成果シート(1年)の3層構造で、事業の推進及び計画の進行管理を行ってきた。

「地域連携戦略ビジョン(2024~2028)」では、地域社会情勢等の変化に対応し、持続可能な体制を維持していくため、計画期間を5年とする。また、地域連携活動の目指す姿と実現に向けた事業の取組をより明確にし、地域連携戦略ビジョンと具体的な事業の進行管理や評価との連携性を高めることを目的に、成果シート(1年)との2層で組み立て進行管理を行う。

〔3層構造〕



〔2層構造〕



第1章 現状到達点と課題

本章では、これまで（旧）の体系に沿って、地域戦略ビジョン（2014～2023）で示された「目指す姿Ⅰ～Ⅳ」の基本的方向性と具体的方策の到達点、課題について概括する。

目指す姿Ⅰ 高等教育機能を発揮している

現状到達点

大学授業の開講については、学習内容を高度職業人養成型、地域課題探求型、文化・教養型の3つに区分し開講してきた。高度職業人養成型については、大学院の租税法を中心とした専門科目授業を開講し、修了生の資格取得等を支援してきた。地域課題探求型、文化・教養型については、地域の学習ニーズに応じて多様な分野の学びを提供してきた。

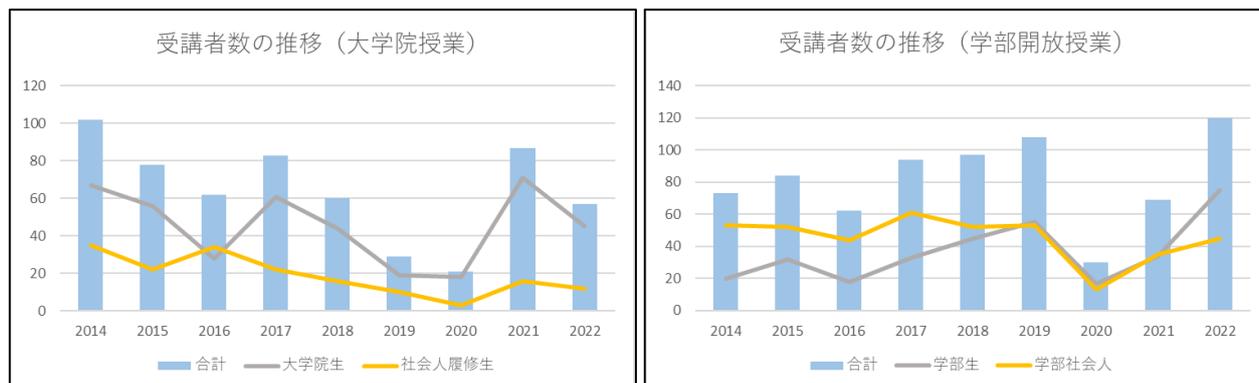
特に地域連携戦略ビジョン(2014-2023)では、地域課題等をテーマとする学習ニーズに対応するため地域課題探求型、文化・教養型の授業開講の充実を課題としており、これまでの10年における受講者数の割合を見ても、地域課題探求型、文化・教養型の受講者が占める割合は全体的に増加傾向にあり課題解決に向けて進んできたことが分かる。

また学習環境の充実という点においては、2017年度まで自習室の開放、図書の貸出を行ってきた。サテライトでのゼミ指導や事務所の縮小等に伴い廃止となったが、サテライトオフィスとしての役割を十分に発揮し、社会人、大学院生及び学部生の自主的な学習を支援してきた。

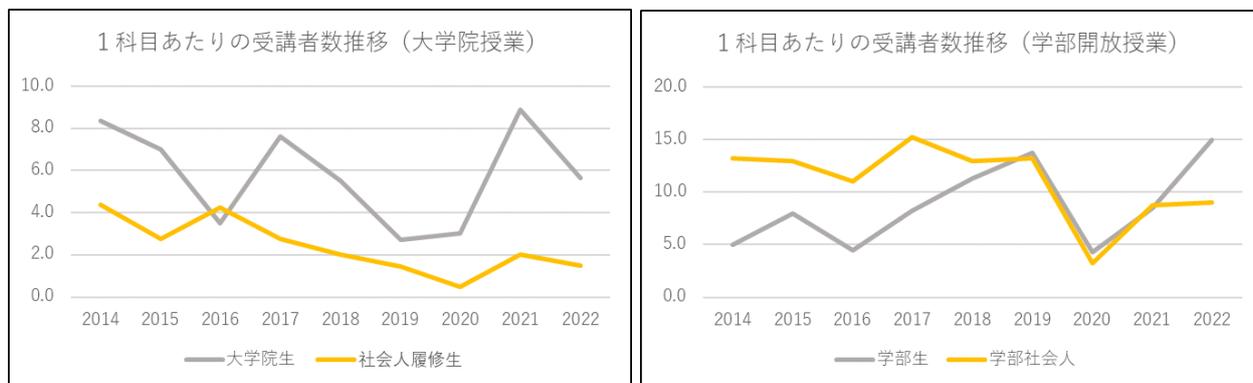
開講授業における学習環境は、オンライン授業を導入するなど、社会情勢に柔軟に対応し、場所を問わず受講できる体制の整理を行った。

課題

- 学部生と社会人が共に学べることができる一方で、高度職業人養成型、地域課題探求型、文化・教養型に区分したため、学生と社会人双方のニーズを満たした授業を設定することが困難。
- 大学院授業については、全体受講者数・社会人履修生とも減少傾向となっている。今後は、受講者数等の状況を踏まえ、学習内容や授業形態、学習環境等を検討する必要がある。
- 大学授業の開講における受講者数については、社会人履修生が減少傾向にある。1科目あたりの社会人履修生数が、学部開放授業はピーク時で15人程度、大学院授業は全体を通して5人を超えることがなく、低く推移している。



※各年度に開講した全科目の延べ受講者数



目指す姿 II 生涯学習機会の提供

現状到達点

生涯学習機会の提供として、2008年度からわだい浪切サロンを毎月（2月と8月を除く）1回開催している。地域課題、歴史、観光、経済、自然科学、食文化など、様々なテーマを取り上げるとともに、2020年度からはオンラインでの配信を開始するなど、多様な学びを多様な手法で提供し、市民の生涯を通じた学習を支援してきた。

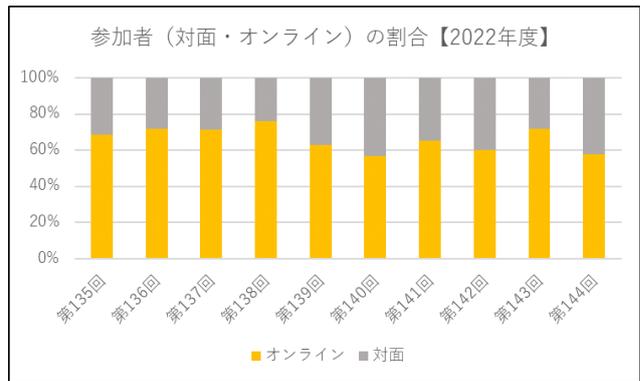
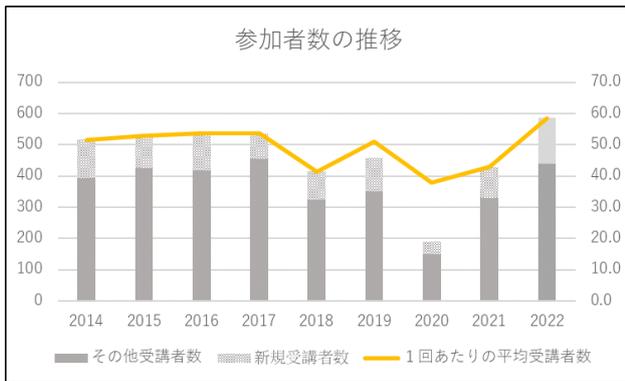
参加者数については、開催1回あたり平均して50名前後を推移しており、安定して多くの参加者を獲得している。

また、講師についても大学間の連携協定に基づき、他大学の教員を登用するなどし、市民の学習ニーズに柔軟に対応してきた。

2016・2018・2022年度と特別セミナーを実施しており、歴史、防災、介護に関するテーマで開催している。実施手法も、講義やカフェ形式、パネルディスカッションと様々な手法を用いて開催しており、市民の多様な学習ニーズに対応してきた。

課題

- 全体を通じて若年層の参加者が少なく、50～70代の参加者が半数を占めている。今後も継続して多様な学びを提供するとともに、より若年層に訴求する内容の検討が求められる。新規参加者が少ない。
- 新規参加者数の割合が平均して20%程度に留まっている。わだい浪切サロンの認知度が上がり、一定の市民が継続して学習しているとの見方もできるが、学びへのきっかけを創出するという点では、全体的な参加者数の底上げとともに引き続き新規参加者の増加を図る必要がある。
- これまで、わだい浪切サロンについては、会場・開催時間を固定し実施してきた。市民がより平易に学習の機会に触れることのできる環境をつくるという点では、参加者のニーズや傾向をしっかりと把握し、会場や開催時間、開催手法について継続的に検討していく必要がある。
- 地域連携戦略ビジョン(2014～2023)では、わだい浪切サロンの充実のため、サテライト授業やセミナー等とのテーマ接続を計画的に行うとなっているが、特に「ワダイノLIVE（旧：浪切サロン）」と「サテライト授業」とのテーマ接続について、計画的に行っていく必要がある。



目指す姿Ⅲ 地域課題の発見と解決・大学の知的資源と住民の交流をサポートしている

現状到達点

地域課題研究型プログラムとして、地域課題の掘り起こし・継続した解決に向けた取り組みを実施してきた。2015年度には、岸和田市の職員と大学教員が連携して「少子化社会における学校のあり方」・「山手のまちづくりのあり方」について研究している。また、2016～2018年度まで「主権者教育プログラム」、「GIS活用プログラム」を実施し、高校生と大学生が交流し政治や選挙について学びを深める場や、地図を使った地域づくり・まちづくりを考える機会を創出した。

各分野における連携については、岸和田市内の公立高校や市立図書館、岸和田商工会議所などと連携を図り、積極的な大学シーズの発信を行ってきた。

また、岸和田サテライト友の会の主体的な活動についても支援し、地域連携事業での協働を推進してきた。

課題

- 地域課題探求型プログラムについて、本プログラムの定義や位置づけが明確でない。実施当初こそ地域の課題を選定し、岸和田市職員と大学教員等が課題解決に向けた研究を進めてきたが、課題の選定、全体的なスケジュールや取り組み手法、費用についての検討がなされていない。これまでの取り組みを改めて整理し、プログラムの在り方、位置づけについて検討するとともに、地域課題をしっかりと把握し解決に向けた取り組みを進めていく必要がある。
- 連携ひろば「ワダイ×キシワダ」についても、2015年度に立ち上げて以降、交流会を2度実施するに留まっており、連携事業の周知や地域団体や企業との連携体制の構築の場としてのプラットフォームの役割は担えていない。連携ひろば「ワダイ×キシワダ」の在り方、効果的な連携事業の発信、地域団体や企業との連携促進の手法について引き続き検討が必要である。

目指す姿Ⅳ 持続可能な連携組織となっている

■ 現状到達点

戦略的な組織体制として、地域連携推進協議会を定期的に開催し、「地域連携戦略ビジョン 2014～2023」・「地域連携アクションプラン」・「事業成果シート」に基づき、連携事業の進行管理を実施してきた。また、企画運営委員会や定例の調整会議を開催し、創造的かつ機動的な運営について、岸和田市の関係部局や大学の関係学部を巻き込んで積極的な提案を行ってきた。

また、市民のサテライトの認知度の上昇、サテライトへの参画が少ない世代に対する広報の強化、さらに新しい連携につなげるための継続的な周知活動のため、戦略的な広報・周知活動として、ホームページやメールマガジン、Facebook等インターネットによる情報発信、チラシや募集パンフレット等の市内主要施設への配架、岸和田市の「広報きしわだ」やホームページによる情報発信といった継続的な活動に加え、大学授業やサロンの参加を促したい層(年齢・職業等)に効果的なイベント告知媒体(Peatix、EventBank等)を活用した情報発信、また、インターネットによる情報発信については、従来の文字媒体に加え動画等を製作・放映し、効率的な情報伝達に努めた。加えて、岸和田市以外の周辺自治体へ情報提供を行い広域的な広報活動にも努めてきた。

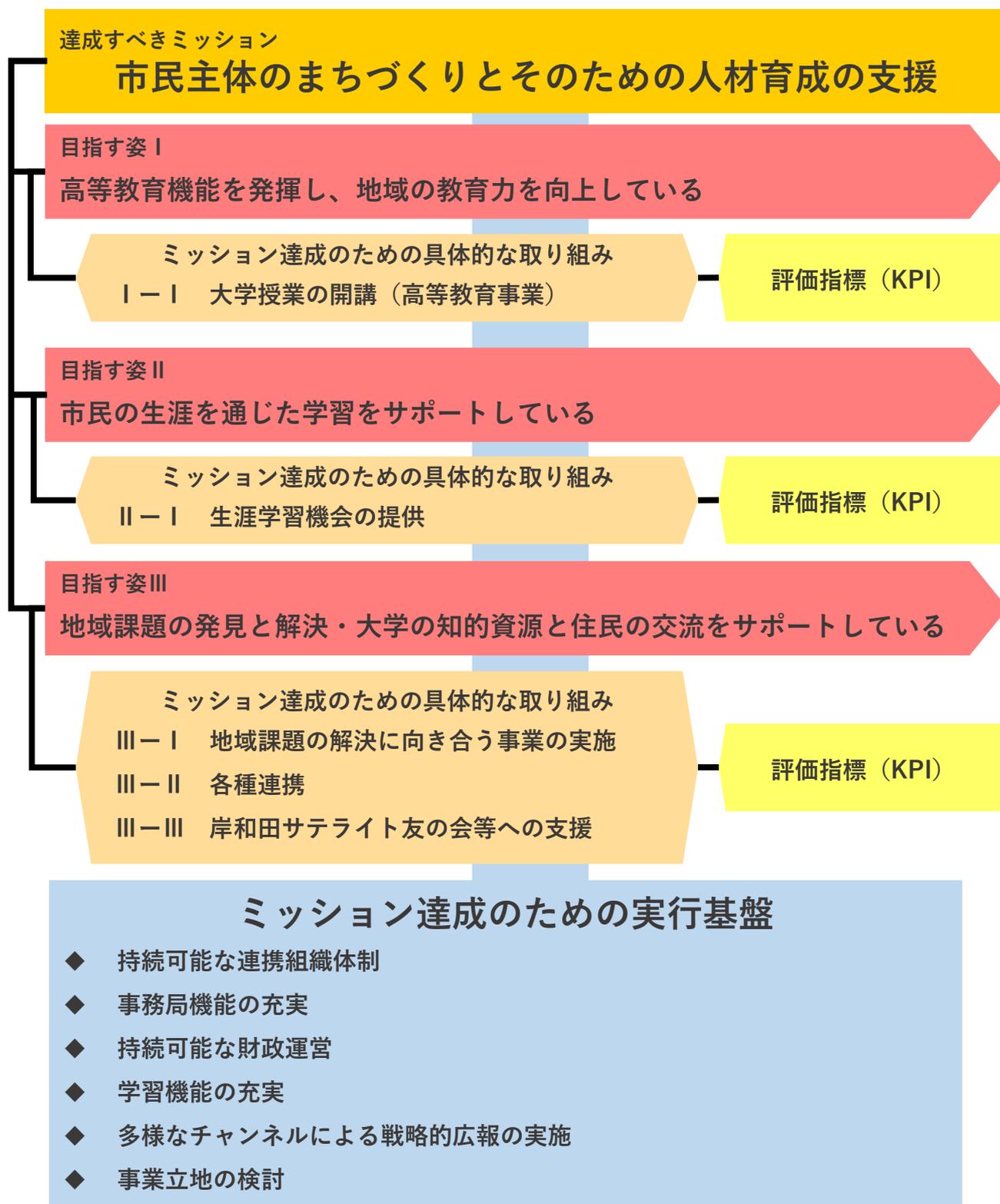
■ 課題

- 「地域連携戦略ビジョン 2014～2023」では、戦略【5-3】財政運営に「今後も財源確保に努めるとともに、外部資金の活用について検討する」となっており、調整会議等において、民間からの寄付金・寄付講座等の外部資金の獲得の可能性について検討してきたが、企画・実施段階には至らず、引き続きの検討と検討結果の実装が課題となっている。
- 引き続き、インターネットや多様なチャンネルを活用し、広報・周知活動を行う必要があるが、一方で、WebメディアやSNSの普及が進み、情報が爆発的に増加、情報過多の時代となっていることから、サテライト発のメッセージを効果的に伝えるためには、引き続き広報戦略が必要不可欠となっている。

第2章 今後の方向性

本章では、地域連携事業で達成すべきミッションと3つの目指す姿、ミッション達成のための実行基盤を明確にし、新しい体系に沿って、各事業の今後の方向性等を明確にする。

体系図（概略）



目指す姿Ⅰ 高等教育機能を発揮し、地域の教育力を向上している

岸和田サテライトにおいて、大学の専門性と地域性を兼ね備えた学習機会を提供し、市民の社会人としてのスキルアップや、地域発展のための知識の習得と実践を支援することを目指す。

具体的な取り組み

◆ Ⅰ-Ⅰ 大学授業の開講（高等教育事業）

これまで受講者の学習ニーズに視点を置き、学びの内容に応じた類型に整理し体系化を図ってきたが、目指す姿達成に向けた取り組みの進捗管理や課題整理・必要に応じた見直しを図るうえでは、大学院授業と学部開放授業のそれぞれの特性を明確にし、方向性を示す必要があるため、授業区分での整理を図り体系化し、各授業を開講する。

- ① 大学院授業：学部で学んだ知識を基に発展的・応用的な研究を行い、社会経済の各分野において指導的役割を果たす、専門的な職業能力を有する人材の育成を目的とするもの。
- ② 学部開放授業：生涯学習に対する社会的ニーズ、また地域との連携を深めるため、大学開放の一環として大学生が受講する通常の授業を「開放授業」として行うもの。

取り組みの方向性

- ◆ 岸和田サテライト事業の目的や開講授業のあり方について和歌山大学と岸和田市が協議し、サテライト授業を開講する体制を整える。（Ⅰ-Ⅰ-①，②）
- ◆ 各学部・研究科及び地域発展指向科目のカリキュラムポリシーに沿った授業を開講するとともに大学地域展開指向科目企画推進部会において審議し、教育の質保証を担保する。また、一定程度の学修が進行した年次で履修を進めていく。（Ⅰ-Ⅰ-①，②）
- ◆ 引き続き、学習ニーズの把握を行い、科目選定にできる限り反映させていくとともに授業形態の検討や社会人受講者の確保強化につなげる。（Ⅰ-Ⅰ-①，②）
- ◆ 社会人受講生と学生と一緒に学ぶことの魅力を周知するとともにさらなる魅力向上につながるよう工夫する。（Ⅰ-Ⅰ-①，②）

【大学の役割】

- ・市民や地域の学習・教育ニーズに沿った学習機会を提供する。
- ・受講生や岸和田サテライト事業参加者の学習ニーズの把握を継続して行う。

【市の役割】

- ・地域・行政ニーズに基づいた授業、テーマを検討・提案する

取り組みについての評価指標（KPI）

- ◆ 開講授業(大学院科目)の社会人受講者数【人】
- ◆ 開講授業(学部開放科目)の社会人受講者数【人】
- ◆ 自治体、市民の求めに応じたカリキュラム(学部開放科目)の実施件数【件】

目指す姿Ⅱ 市民の生涯を通じた学習をサポートしている

岸和田サテライトにおいて、地域へ学びと交流の場を提供することで、市民の多面的な学習ニーズに応え、市民の生涯を通じた学習活動をサポートする。

具体的な取り組み

◆ Ⅱ-Ⅰ 生涯学習機会の提供

- ① ワダイノLIVEの充実
- ② セミナー等の開催
- ③ リカレント教育の促進

取り組みの方向性

- ◆ 他事業との接続や連携など様々な展開を想定し、企画するとともに、文化と生活の豊かさにつながるテーマを計画的に行う。また、特に学習への探求ニーズが高いテーマについては、大学授業の開講（高等教育事業）への移行を検討していく。（Ⅱ-Ⅰ-①）
- ◆ 地域・行政ニーズに適した講座や特別セミナー（連続性のない、かつ世界や日本における社会問題や社会課題に対応したテーマ）を実施する。また、ワダイノLIVEの充実とも併せて新規参加者の増加につなげる（Ⅱ-Ⅰ-②）
- ◆ 和歌山大学リカレント教育ビジョンに沿って、SDGs時代の地域共生社会の担い手づくりあるいは産業競争力向上に貢献する教育プログラムを地域のステークホルダー等との共創型で提供する。（Ⅱ-Ⅰ-③）

【大学の役割】

- ・セミナーや講座を開催する。
- ・学びと交流の場を提供する。

【市の役割】

- ・セミナーや講座の広報活動を行う。
- ・岸和田サテライト事業を市事業と連携させる。

取り組みについての評価指標（KPI）

- ◆ ワダイノLIVEにおける平均参加者数【人/回】
- ◆ ワダイノLIVEにおける新規の平均参加者数【人/回】
- ◆ 大学院授業、学部開放授業の開講科目につながるわだいな浪切サロンの開催回数【回】
- ◆ 浪切サロン受講者アンケートの満足度（非常に満足、おおむね満足）【%】
- ◆ リカレント講座を含むセミナー等の開催回数【回】

目指す姿Ⅲ 地域課題の発見と解決・大学の知的資源と住民の交流をサポートしている

市民主体のまちづくりを行うには、地域の独自課題を発見し、解決することが求められるため市民と大学、行政が連携して地域課題を探究し、解決に取り組む状態を目指す。

具体的な取り組み

◆ Ⅲ-Ⅰ 地域課題の解決に向き合う事業の実施

- ① 大学の知的資源を活用し、市民自らが地域課題の解決に向き合う事業を企画し、継続して実施する。

◆ Ⅲ-Ⅱ 各種連携

- ① 学校教育分野における連携促進
- ② 生涯学習分野における連携促進
- ③ まちづくり分野における連携促進

◆ Ⅲ-Ⅲ 岸和田サテライト友の会等への支援

- ① 岸和田サテライト友の会や和歌山大学卒業生との関係強化

取り組みの方向性

- ◆ 高等教育事業等の他事業との連携を図り、地域課題解決の実現性を高めていくとともにテーマ選定時から岸和田市の各担当課と調整し、連携しながら社会実装教育研究プロジェクト等の具体的な事業を実施する。（Ⅲ-Ⅰ-①）
- ◆ 教育委員会や高等学校において、具体的なニーズ（大学教育による出張講義や研究学習の指導等）を明らかにし、高大連携事業を展開していく。（Ⅲ-Ⅱ-①）
- ◆ 子どもを対象とした講座等について、市の生涯学習事業や地区公民館等での講座など連携事業を展開していく。（Ⅲ-Ⅱ-②）
- ◆ 市・大学・市民、さらに企業や団体などが協働しながら、大学が持つシーズを有効に引き出し、岸和田市とその周辺の泉州地域一体の観光・産業振興に活用する。（Ⅲ-Ⅱ-③）
- ◆ 引き続き、友の会の積極的な地域活動への参画や、和歌山大学OB・OGネットワークの構築等を支援しながら、サテライト事業での協働を推進していく。（Ⅲ-Ⅲ-①）

【大学の役割】

- ・専門的知見を活かした研究活動を行う。
- ・全学的な地域連携体制を構築する。

【市の役割】

- ・岸和田サテライト事業の成果を市施策へ反映させる。
- ・大学シーズを積極的に活用する全学的な体制を構築する。

取り組みについての評価指標（KPI）

- ◆ 地域課題の解決についての岸和田市と大学とのディスカッション等の回数【回】
- ◆ 学校教育分野等の連携促進に関わる事業の数【件】
- ◆ 友の会と共催する事業等の開催回数【回】

ミッション達成のための実行基盤

持続可能な連携組織体制

岸和田サテライトを拠点として、継続的かつ発展的に大学と市の地域連携を推進する体制を整備する。

◆ 地域連携推進協議会の充実

大学と市が連携を密にして情報交換を進めるとともに、共同事業を推進するために必要に応じて連携組織体制の見直しを行なっていく。

◆ 大学の連携体制の強化

全学的に地域連携戦略を共有し、サテライトを地域連携の拠点とするためのサポート体制を確立する。

◆ 市の連携体制の強化

全市的に大学のシーズを積極的に活用する体制構築を、各担当課とともに行う。

事務局機能の充実

地域連携コーディネーターの積極的な活動や研修参加等により、持続可能な事務局機能を実現するとともに、引き続き、連携の窓口としての事務局体制の充実と安定に努める。

持続可能な財政運営

今後も財源確保に努めるとともに、外部資金の活用について検討する。

学習機能の充実

今後も利用者ニーズに応じて学習環境の充実に努めていくとともに、社会人受講者と大学院生、学部生が同じ授業を受講するという特質を生かして、相互の知的交流を促進する。

多様なチャンネルによる戦略的広報の実施

引き続き、市民におけるサテライトの認知度をさらに上昇させるとともに、サテライトへの参画が少ない世代に対する広報を強化するため、新たな広報手段の活用を検討する。

また、庁内・大学内でのサテライトの認知度を上昇させ、新しい連携につなげるため、継続的な周知活動を行う。

事業立地の検討

施設としての充実度や中心市街地活性化の観点から、立地については、現時点で浪切ホールが適切と考えられるが、今後、周辺環境の変化等があれば検討していく。

参 考

～和歌山大学経済学研究科カリキュラム・ポリシー（抜粋）～

●大学院授業の目指す方向性

【教育課程編成の視点と内容】

1. 専門知識を有するものとしての倫理観，及びグローバル社会において必要なコミュニケーション能力の涵養，並びに多様な専門分野に接する機会を通じた学際的視点の獲得のために基本科目を開設する。
2. 専門分野における学問的方法と理論の修得のために専門科目を開設する。
3. 現実経済社会の実態を把握し，課題を発見する能力と多様な主体と協力しながら主体的かつ実践的に課題を解決する力を養うために，実践演習科目を開設する。
4. 研究の過程を経て創造的な解決に至った成果について，正確かつ論理的に記述・表現する能力を培うために専門研究科目を開設する。

【教育課程展開の授業形態・方法】

1. 定性的・定量的な二つの側面から，経済社会の理解に必要な理論と分析に必要な学問的方法とを教育するための講義を中心とした授業を実施する。
2. 課題を発見し分析する力，修得した知識と方法を活用する力，考える力を強化するための演習を中心とした授業を実施する。
3. 現実経済社会における実態を把握し，学内外の専門家と協力して課題解決に至る過程を管理する力（マネジメント力）を養うために行われる実践的な授業を実施する。
4. 多様な視点から課題を分析し創造的に解決する力，課題の把握から解決に至る過程を記述し表現する力を育成するための対話を中心とした授業を実施する。
5. 多様な視点から課題を捉える能力の養成のために，主専門科目以外に副専門科目の履修指導を行う。
6. 多様な学生の教育・研究に対する要望に応えるために，授業のいくつかは，土曜日開講，平日の夜間開講，e-learningなどを活用する。

～地域展開指向科目の企画・実施に関する考え方(カリキュラムポリシー)（抜粋）～

2. 地域展開指向科目の目指す方向性

地域展開指向科目には，「①わかやま未来学副専攻科目の科目群」と「②サテライト開講の学部開放科目の科目群」が含まれる。これらの科目の特徴・性格をふまえると，目指す方向性は下記ようになる。

多様かつ複雑な課題が生じている現代社会において，それらを解決するためには単一の知識・視点では不十分である。広い教養と深い専門性，そしてそれらを繋ぐ知性が必要である。それらに裏打ちされた知性をもとに，課題の解決を模索・実践する態度を涵養するが，そのためには現実の課題が起きている地域の理解と連携が不可欠である。また，生じている課題は一人の人間が解決できる能力の範囲を超えている。よって，解決のためにはそこに暮らす人々など課題の当事者との協働が必要であり，当事者意識をもって課題解決に取り組む事ができる，社会的に要請される人材として成長できる機会を提供する。なお，これらを実現するためには，教養とともに深い専門性の両者が結合した学びとなることが前提（連携展開科目定義）である。とくにサテライト開講の科目については，本来的には一定程度の学修が進行した年次での履修が望ましい。

和歌山大学リカレント教育ビジョン（抜粋）

ビジョン

和歌山大学は地域の人材育成機関として「リカレント教育」を進めるため、次のビジョンを掲げます。

- ① 和歌山県・大阪南部地域の産業競争力向上に貢献します。
- ② SDG s時代の地域共生社会の担い手づくりに貢献します。

取組

ビジョンを達成するため、和歌山大学では次のリカレント教育の取組を進めます。

- ① 和歌山大学単独ではなく、さまざまなステークホルダーと共創型で展開します。
- ② 企業や団体のニーズや社会に必要な学びを踏まえた、教育プログラムを提供します。
- ③ ICT、DXを最大限活用し、受講生が働きながら・生活しながら学べる環境づくりを進めます。
- ④ 松下会館（西高松団地）を地域のリカレント教育の拠点と位置づけ、その機能を強化します。

社会実装教育研究プロジェクト

和歌山大学と地域の多様な立場の人たちと共創し、新しい価値を共に創りあげながら、社会的インパクトを創出することを目的とするプロジェクトで、最終的には持続可能な仕組みづくりと人材育成を目指す。

